

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3170201457
法人名	医療法人社団 日翔会
事業所名	グループホームつつじ
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市米原6丁目9番地23号 (電話) (0859)37-5220

評価機関名	(有) 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年9月22日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.7 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	階 ~ 1・2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	60 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 下山医院 ・ 医療法人 高野歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立3年目を迎えるグループホームつつじは、米子の市街地に位置し、2階建て2ユニット、デイサービスが併設している。デイサービスと合同のレクリエーションが四季を通じて色々と趣向豊かに催される事も魅力のひとつと言える。現在職員は若手中心に構成されており、日常的な外出、食事の準備、入浴など様々な場面において、利用者本位のゆとりある支援が行われている。ホームでは、利用者が有する力を活かしながら暮らし続けていく為に、様々な試みがなされている。利用者のつづやき等を参考に実現化する為の「うさ耳ノート」や、利用者により良いケアを提供する為、職員の思いや提案・相談を書き留める「支援ノート」など独自の工夫が特筆される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員の異動に関する家族への連絡方法について課題となっていたが、毎月の便りで職員の写真入りの紹介が掲載されるようになるなど、家族への報告のあり方について工夫・改善されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、管理者及び中堅の職員が項目ごとに話し合い、検討して一部にまとめられた。実施している内容等の記述についても、詳しく掘り下げており、前向きな姿勢で取り組んでいる。新任職員に対しても、評価の意義とねらいについての周知、項目毎の理解を促すことが求められ、評価を効果的に活用していくことが望まれる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月に一度定期的に開催されており、ホームの活動報告、行事の広報活動に関する相談、緊急時における自治会への協力要請などが討議されている。参加者は、利用者家族、自治会長、包括支援センター職員、地域住民の方々とホーム職員で構成されており、活発な意見交換が行われている。地域の支援を受けて定期開催されているグランドゴルフ教室もこの運営推進会議がきっかけとなっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議時や利用者の様子を報告する電話連絡時、家族の面会時等、直接職員に相談するケースなどを通して意見・思いを把握するよう努められている。意見、苦情を受けた時は、速やかに対処し家族へ説明がなされ、運営への反映もなされている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、グランドゴルフ、清掃活動、公民館祭り等地域との積極的な交流が評価される。近隣の高校生のボランティア受入れは年間を通して計画されている。デイサービスと一緒に開催するつつじ祭り、つつじサロンも地域住民の参加があり、開かれたホームを目指している努力が実り始めている。また、日常的な散歩コースの中にも近隣住民とのふれあいがあり、「地域と家族、施設を結ぶ絆を大切に」との思いから生まれたホームの「スマイル&ハート宣言」は、地域との連携の一役を担っている

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、ホーム独自の理念がつけられている。地域で暮らし続けることを支援する内容も盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々理念の唱和が行われ、施設内においても目につきやすい場所への掲示なされ、1人ひとり身に着けることで意識づけがなされている。理念に照らしてケアが行われるよう取り組みや話し合いが行われている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の催し事や清掃活動にも利用者と一緒に参加している。近隣の高校生が定期的にホームを訪問し、カルタとりや、ハンドマッサージ等を通して交流が確認できた。公民館より介護教室の依頼もあり、地域のひとつの資源として機能している。複合施設との合同の祭りやサロンも開催され、地域に開かれたホームの取り組みが評価される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成にあたっては、管理者と一部の職員による話し合いで行われている。取り組みの事実について、各項目丁寧に検証されており、評価に対して真摯な姿勢で取り組んでいるが、全職員へ意義の理解・周知には至っていない。前回の外部評価結果を受け、改善項目について職員会議および運営推進会議で報告・検討がなされていた。	○	全職員が自己評価点検作業に関わり、項目ごとにケアの振り返りを行い、サービスの向上に活用されるとよりよいケアが生まれるのではないのでしょうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回定期的開催されている。メンバーは利用者・家族、自治会長、敬老会代表、地域包括支援センター、地域住民より構成されており、サービス内容の報告、地域住民の介護の相談、催し物の報告・相談等、意見交換が活発に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に地域包括支援センターと連携が取られており、行政とは利用者についての相談の機会はあるが、サービスの質の向上につながる連携の取り組みには至っていない。		市役所の担当者との関係作りはこれからの課題といえる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭報告に添えて、利用者の様子、職員の異動を知らせる便りを発送している。面会に来られる家族にはその都度職員から様子を報告している。また利用者の状態に変化があればその都度、電話等で報告がなされている。	○	日々の健康状態、普段の生活の様子がわかるようなケア記録を開示したり、家族との連絡帳の作成・記述することにより、苦情も相談へと変るケースやホームと家族の信頼関係がより強くなるのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に家族の参加もあり、意見を表せる機会がつけられている。意見箱の設置、家族からの意見に対する返答を掲示するスペースも設置されており、意見や不満・苦情を受けた時は、速やかに対応・結果の報告・掲示がなされていることが確認でき、それらを運営にも反映がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は、細心の注意と配慮がなされている。スムーズに担当者が移行できるよう、できるだけ余裕ある引継期間を取るよう努めている事が伺えた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外・施設内研修も実施されている。年度上半期、下半期ごとに1人ひとりの研修計画を立て、それに沿った研修受講が行われるよう調整・支援がなされている。		研修のより良い意義と効果をねらい、伝達講習の実施が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会にも所属し、毎年相互研修が行われ、報告もなされている。また法人内でのグループホーム間の相互研修も年1回行われ、サービスの質の向上に研鑽されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者にホームの雰囲気に馴染めるよう、事前に見学してもらっている。入居待機中の利用者に対しても、状況把握等を含め定期的に連絡し、信頼関係や馴染みの関係作りに努められている。入所までの間、併設のデイサービスを利用したいと言う希望にも柔軟に対応し、馴染めるよう家族と相談しながら工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節行事、ラッキョウ漬け、梅干などの保存食、野菜作り、裁縫など、職員が利用者に教わる場面もあり、共に支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心のつぶやきを拾った「うさ耳ノート」を発案、活用している。例えば土用の時期に、「鰻が食べたい」という声を聞いたらメニューに取り入れるなど、速やかに実現化している。夕食後の入浴、日常的な買物など暮らし方の意向に対応し、個々に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議でケアについて、利用者・家族の希望・意見やニーズを踏まえ、かかりつけ医の意見や情報も含め、関係職員間で話し合わせ、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの課題に沿って、利用者の日々の記録を、毎月評価が行われているが、見直し以前に大きく体調の変化のあった利用者についても新たな計画が作成されていた。	○	利用者の身体状況の変化はもとより、新たなニーズ、ターミナルや重度化を想定した支援、現状と離れてしまった課題の見直しをきめ細かく介護計画に反映させることも望まれる。職員の気づきを書き留めた独自の「援助ノート」をさらに活用されるとよりよいものができるのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向により受診の支援も行っている。入院中の利用者面会や利用者・家族の精神的状況から早期退院に応じたケース、重度化した利用者のホームでの生活継続支援等柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診支援が行われている。かかりつけ医以外にも訪問診療の協力を得ている3医院がある。家族が受診に付き添う際は、「受診時の連絡表」に記入をしてもらうことで、的確な情報の共有を図り、適切な医療が受けられるように支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者をホームで支援したケースがある。また、一時重度化した利用者に対し、家族と本人の意向を受け、かかりつけ医・職員一丸となって介護・支援を行い乗り越えたケースもある。終末期におけるあり方についての法人としての明確な方針はとられていない。		ターミナルについて職員一人ひとりが勉強してゆくことも必要とされる。重度化した利用者のケアに関して、家族と意識のずれが生じないよう書面確認や連絡のとり方について徹底した方がよいと考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて職員が認識しており、ホーム独自の工夫を行うなどして慎重に配慮されている。個人の尊厳を傷つけない言葉がけについての話し合いが持たれ、それに基づいた禁句集などを作成しプライバシー保護を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食材の買物に行きたい利用者、併設のデイサービスのリハビリテーションに参加したい利用者、心ゆくまで編物を楽しみたい利用者、一人ひとりのペースを優先させた暮らしを支援している。利用者の表情も豊かで落ち着いている様子が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食ともに、利用者のリクエストに応じて、ユニット毎に職員が献立を作成している。調理、配膳、下膳、食器洗いなどのプロセスで、出来る場所は利用者とともにに行い支援している。職員も利用者と同席して、利用者を介助しながら、同じメニューの食事をされている。食事中に演歌のDVDが流れたり、テレビをつけたりと、各ユニットで個性が垣間見え、利用者もゆったりと落ち着いて食事を楽しまれていた。		食事が利用者の負担とならないよう、機能に合った食事形態、食器となっているかなど日々の観察をさらに続けてゆくことが求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、毎日入浴できる様に職員のシフトが組まれている。夕食後に入浴する習慣の利用者の意向も大切に出来るよう、勤務時間の見直しがなされ、1人ひとりの希望に添えるよう支援がなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除も利用者の有する力を発揮できるようサポートしている。漬物作りや、お菓子作り、野菜作りなど利用者の生活歴、力量に応じた場面作りを支援している。押し花アートの作品作りもボランティアの支援を受けながら、基礎から応用作品にまでおよび居室や共有空間・廊下等に飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気と相談しながら、日課である買物や散歩に希望する利用者と一緒に出かける支援がなされている。利用者の能力や好みに合わせて3つのオリジナルの散歩コースも考案されており、庭をみせてもらえる家や地域の交流できるポイント、近隣の高校生のクラブ活動を見学できるポイント等が各コースに設けられており、日常的な外出支援が行われている。散歩コースの考案にあたり、職員が地域住民への働きかけ・努力の取り組みについて評価されることから是非継続して頂きたい。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地内に不審者の進入があり、運営推進会議でも課題として取り上げメンバーの意見を求めた所、対策として日中も玄関のみ施錠を行っているが、利用者の外出の気配を察し、職員が対応している。職員や家族の面会の出入り、外出等で日中施錠の時間は短いのが現状である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者も参加し避難訓練が実施されている。地域の自治会長に夜間の災害時の応援も依頼している。飲料水、アイソニック飲料、栄養補助食品などの備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し把握している。嚥下障害のある利用者には状態に合わせた食事の形態にしている。水分補給にこまめな声かけがなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、広いダイニングテーブル、ゆったりとしたソファがあり、利用者は好みの場所でくつろいでいる。塗り絵、押し花アート、折り紙など、利用者の手作り作品が飾られている。空調・照明も適度に調節されており、居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの趣味に合わせ、使い慣れた家具、生活用品も持ち込まれており、居心地の良く過ごせるよう居室の雰囲気づくりの支援がなされている。		